

令和5年度 近畿地区特別支援学校知的障害教育校PTA連絡協議会

6月29日(木) 橿原市保健福祉センター(奈良県)に於いて開催された近知P協議会へ参加しました。

近畿地区知的障害教育校の各学校長とPTAが集い、総会と記念講演会が開催されました。感染症予防に対する配慮から総会は書面決議、記念講演会は対面での実施となりました。総会では4年度事業報告や5年度の役員選出・事業計画が書面にて決議された内容について確認しました。

総会に引き続き記念講演会を拝聴しました。演題は「思春期の子どもに寄り添う」という非常に深い内容でした。講演後も質疑応答が交わされ、各校の状況を知る事ができた貴重な情報交換の時間となりました。難しいテーマを分かり易く、時にはクスツとなるお話を交えた内容で時間が経つのも忘れてしまうほどでした。

「思春期」ってそもそもどういうこと?という基本からスタート。目からウロコポイントは3つです。

- ① 思春期は脳機能の発達とは関係がなく、実年齢にほぼ比例する
私は「うちの子はまだ・・・発達年齢は〇〇歳だから・・・まだまだ思春期こない」と一方的に思っていました。しかし『体の第二次性徴は実年齢の進みとほとんど同じスピードでやってくる!』ということ。これはびっくりですね。
- ② 思春期は子ども達にとって必要。まして、保護者自身にとっても必要な時期
子ども達の心の大きな変化が起こる数年前から目では見えない小さな変化が体の内側で始まり、それは次第に大きな変化へとなっていく。自立していく子ども達を見守る私たち保護者にとって思春期という時期は必要なのだと再認識させられました。
- ③ 保護者は思春期を一步一步進む子ども達としっかり向き合うことが大事である
周囲の不確かな情報に踊らされることなく、保護者が子ども達の特性(得意な点、苦手な点)を見守ると同時に、それぞれの障がいの基礎的(医学的)知識をも学んでいくことが求められている。

我が家では、子どもと向き合っているかな? と一度立ち止まり考えてみることにしました。

PTA 副会長 (中学部)